

クレジット:

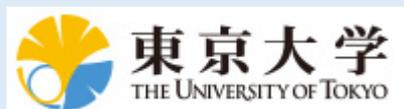
Mathematics and Informatics Center 文科系のための線形代数・解析Ⅱ
2020 藤堂 眞治・松尾 泰・藤原 毅夫

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



多変数関数に対する制約条件なしの最適化法

目的関数 $f(\mathbf{x})$ が多変数関数であるときには、変数をベクトル表示で \mathbf{x} と表す。

$f(\mathbf{x})$ は \mathbf{x}^j の周りで任意の回数だけ偏微分可能であるとし

$$\xi = \mathbf{x} - \mathbf{x}^j, \quad \mathbf{p} = \nabla f(\mathbf{x}^j), \quad H = \nabla^2 f(\mathbf{x}^j)$$

とおく。 $\nabla f(\mathbf{x}) = (\frac{\partial f}{\partial x_1}, \frac{\partial f}{\partial x_2}, \dots)$ は勾配ベクトルであり、 $H = \nabla^2 f(\mathbf{x})$ はヘッセ行列。

$f(\mathbf{x})$ が最低値を持つ条件 (H が正定値行列) を満たすとする。

目的関数 $f(\mathbf{x})$ を \mathbf{x}^j の周りでテイラー展開し、 $\xi = \mathbf{x} - \mathbf{x}^j$ の2次で止めると

$$f(\mathbf{x}) = f(\mathbf{x}^j) + \mathbf{p}' \xi + \frac{1}{2} \xi' H \xi = f(\mathbf{x}_k) - \frac{1}{2} \mathbf{p}' H^{-1} \mathbf{p} + \frac{1}{2} (\xi + H^{-1} \mathbf{p})' H (\xi + H^{-1} \mathbf{p})$$

となる。この式は $\xi + H^{-1} \mathbf{p} = \mathbf{0}$ のときに、 $f(\mathbf{x})$ が極値をとる。

これは書き直し

$$\xi = -(\nabla^2 f(\mathbf{x}_k))^{-1} (\nabla f(\mathbf{x}^j))$$

である。こうしてより良い近似解 (2次形式の最小点)

$$\mathbf{x}^{j+1} = \mathbf{x}^j + \xi$$

が得られる。

これを繰り返して、目的関数の真の極値が得られる。

例

$$f(x, y) = x^2 + xy + y^2 + \exp(x^2 + y)$$

として、最小値探索の例を挙げておこう。

ここでは勾配およびヘッセ行列を求めるコマンド `gradient`, `hessian` を用いる。

```
ite=zeros(20,3);
syms f(x,y)
f(x,y) = x.^2+x.*y + 2*y.^2+exp(x.^2+y);
gr=gradient(f,[x,y]);
He=hessian(f,[x,y]);
x0=0.8;y0=0.8;Dev=1;
for n=1:20
    if Dev>10^(-7)
        xi0=double(-He(x0,y0)\gr(x0,y0));
```

```

x=x0+xi0(1);y=y0+xi0(2);
f0=f(x,y);Dev=sqrt((x-x0).^2+(y-y0).^2);
ite(n,1)=n;ite(n,2)=double(x0);ite(n,3)=double(y0);
ite(n,4)=Dev;ite(n,5)=f0;
x0=double(x);y0=double(y);nmax=n;
end
end
ite(1:nmax,:)

```

```

ans = 6x5
 1.0000    0.8000    0.8000    0.9108    1.9062
 2.0000    0.6995   -0.1052    0.4019    1.0133
 3.0000    0.3109   -0.2076    0.2338    0.8934
 4.0000    0.0771   -0.2100    0.0184    0.8926
 5.0000    0.0601   -0.2169    0.0001    0.8926
 6.0000    0.0600   -0.2170    0.0000    0.8926

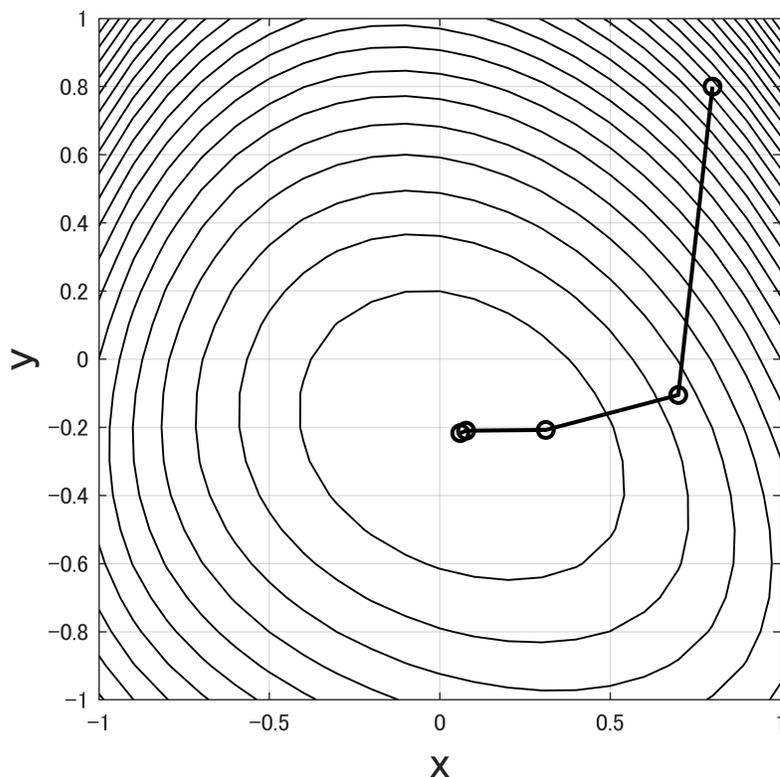
```

計算結果を図に描いてみる.

```

[x,y]=meshgrid(-1:0.1:1);
f= x.^2+x.*y+2*y.^2+exp(x.^2+y);
contour(x,y,f,25,'-k','LineWidth',0.7);hold on;grid on
plot(ite(1:nmax,2),ite(1:nmax,3),'-ko','Linewidth',1.5);grid on
daspect([1 1 1]);xlabel('x','FontSize',18);ylabel('y','FontSize',18);

```



課題

(1) 評価関数 $f(x,y) = x^4 + 2x^2y^2 + y^4 + \exp(x^2 - y^3)$ の最低値とそのときの x, y の値を見つけなさい.

- (2) 最小値探索のコマンドには `gradient`, `hessian` を用いず, 自分で作りなさい.
- (3) 最低値を見出すコマンドとして, `fminunc`, `fminsearch` がある. これを用いて上の問題を計算してみなさい.